

平成 26 年度
宜野座村むらづくり村民会議
座長 當 真 淳 様

宜野座村むらづくり村民会議の産業の発展／村内施設について（意見具申）

私たちの分科会では、表題の件について議論を重ねて取りまとめましたので別紙のとおり
具申いたします。

平成 27 年 3 月 18 日

宜野座村むらづくり村民会議
産業の発展／村内施設 分科会
分科長 瓜生 玲
副 長 金城 善彦
会 員 島袋 操
会 員 仲地 曜
会 員 石川 建太
会 員 比嘉 康二
会 員 仲間 澄子
会 員 宇座 徳正
会 員 知名 ゆい子

（事務局）新里清次企画課長

意見具申書

1. 具申内容

1) 目的（本分科会で議論した中で明確化した目的）

宜野座村には、魅力あふれる手つかずの豊かな自然、歴史的価値ある史跡、脈々と受けつがれる伝統芸能・文化に加えて農業や漁業といった産業が多く存在します。

そして、この手付かずの豊かな自然を守り、伝統芸能・文化を受け継いで来た地域住民がいます。

この沖縄の原風景を今に残した宜野座村の魅力や価値（情報）が、まだまだ十分に県内外の人々に発信されていない現状があります。

そこで私たち分科会では、これら宜野座村の自然、史跡、伝統文化や農魚業、そこに住む人々の魅力を県内外に伝えることが必要だと考え、情報発信力とその仕組みづくりを目的として議論しました。

2) 現状（目的に至った経緯等）

目的に述べたような手つかずの豊かな自然、史跡、伝統芸能や文化と言った魅力について、未だに村民が『感付いていない』と言う現状があります。

各集落（字）で行なわれている豊年祭も、それぞれの集落ごとに個性があり特色ある芸能文化と言えます。しかし、集落の中にたたずむ景観や自然の魅力も、あたりまえの日常風景として特に魅力を感じられているわけではありません。

しかし、村外や県外の人々が見た時には美しく心洗われる風景であったりするのです。

この様な村民にとって当たり前の文化や自然を今一度見直して「宜野座村の財産であり魅力的な資源」だと知ることや感じることが、何より必要なことであり、宜野座の集落をあますことなく発掘し伝えたいと考えました。

今、コンドミニアムや民宿を利用して宜野座村を訪れているリピーターが静かに増え続けています。

3) 分科会からの意見（具申内容、現状、目的に対するアイデア）

上記のような宜野座村の状況を考えた時に、先ず村民自身が我が村の魅力や、守り続けなければならない大切な伝統芸能や文化を知ることが重要なことです。

そのため

① 各区自慢大会の開催（*参考：各県観光物産展の宜野座村各区版）

がらまんホールを活用して、各集落が、映像、語り、写真等展示、舞台での歌、演奏、踊りなど様々な手法を用いて我が集落（字）を自慢する自慢大会を行い、競い合います。このことで、他の集落の魅力を村民が知る機会になると考えます。

② フリーぺーぺー（宜野座に魅力小冊子）の発行

宜野座の魅力（自然、伝統芸能・文化、史跡、農漁業など）を発信するフリーペーパーを年3～4回作成します。このフリーペーパーは、宜野座村を世界に伝えるビジュアルメッセージにもなります。

言語情報+画像情報をクロスメッセージとして伝わりやすいメッセージとなります。村職員の県内外の出張や村民の県外への旅行やビジネスの際にも配布しやすいコンパクトで見やすい伝わりやすい手渡しで伝える情報誌になります。

フリーペーパーの企画、編集、発行については、宜野座村観光推進協議会によるものが適当であると考えます。村内からの発信は一元化されていることで情報の正確さや行政からの適切な情報収集が可能となります。

誰もが活用できるツールとして

- ・村役場
- ・観光推進協議会事務所
- ・村内店舗
- ・西海岸ホテルコンシェルジュデスク
- ・那覇市観光案内所
- ・空港観光案内所
- ・モノレール駅

などに配布、設置する仕組みが必要です。

*参考 首都圏では「METO」「R25」等といった人気のフリーペーパーがあります。読んで思い白い、興味を持つなどのコンセプトを持ったものなど情報収集してみることも良いかと思います。

③ WEB での情報発信

宜野座村の HP やナビ助での情報発信が現在行われていますが、新鮮な情報が適時更新されなければいつ見ても同じ情報しか見ることができません。WEB サイトでのリピーター作りも必要だと思います。

季節を感じる情報、いついけばどんな楽しみがあるかを知ることができる予告anson。手の届かない潜在的消費者に届けるには効果的なツールになります。

更に、HPなどをカバーするリアルでレアな情報発信ツールとして Face Book や Twitter などの SNS の活用があります。これは、個人での情報発信ツールとして、今や世界中を飛び回っている双方向の情報発信ツールに成長しています。

宜野座 Face Book などのグループを立ち上げることで、ここに宜野座ネットワークが生まれ、全国や世界の宜野座村民がつながることになります。

「『宜野座んちゅ FB 魅力ネットワーク』を形成し、月1回程度、情報収集や情報共有のミーティングを行い情報分析したものを発信するチームを作ります。このチームは観光推進協議会とも連携し情報を拡散していくことに活用します。」

公開する情報については、WEB 公開された時にシェアされたり、2次利用される可能性もあります。情報公開には、予め注意が必要です。

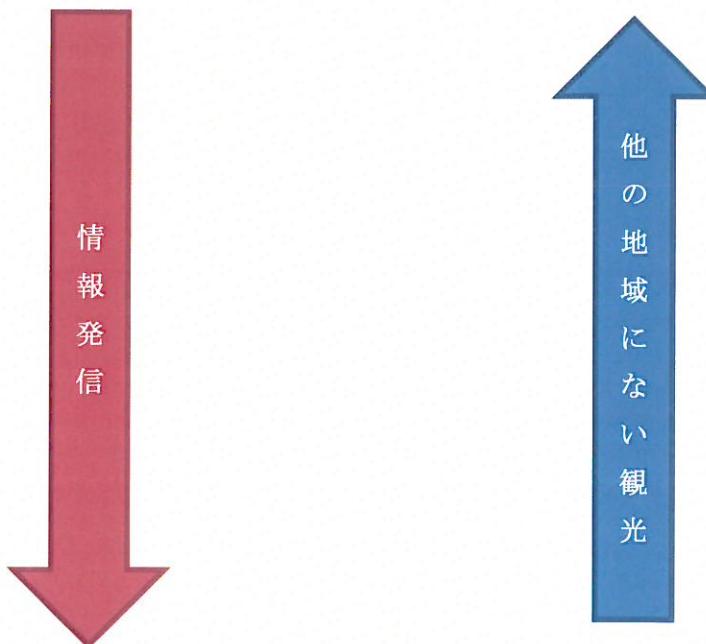
*パブリックドメインの扱い： パブリックドメインに帰した知的創作物については、その知的財産権を行使しうる者が存在しないことになるため、知的財産権の侵害を根拠として利用の差止めや損害賠償請求などを求められることはないことになる。その結果、知的創作物を誰でも自由に利用できると説かれることが多い。

*情報提供や収集時の注意事項として

- ・個人情報にあたる情報発信を行う場合は、個人の承諾を得ること。
 - ・著作権に関する確認を行った後に公開すること。
 - ・効果する情報は、あくまで宜野座村のPRやイメージを伝えるものであることから公序良俗に反しない画像や言葉を使用すること。
- などの運用上のルールを作り順守することが求められると考えます。

4) 期待される効果

- ① 村民が自分の村への意識関心が高まることで
 - ・宜野座の自然環境を守る。
 - ・伝統文化の伝承保存を次世代へ継承できる
 - ・変わらない風景、変わらない自然は貴重な資源であることへの気づき
 - ・村内の美化意識
- ② 宜野座村プロモーションの仕組みが生まれ、村外の人からのメッセージ、宜野座村への入域者、観光客、長期保養滞在者などの姿を目につくことや会話・交流が生まれることで更に村民が自身の村への意識が高まります。
- ③ 自村の自然、文化、産業、歴史への興味関心が生まれます。
- ④ 民泊従事者に対して「宜野座の自然、文化、産業、歴史の勉強会」を実施します。
- ⑤ 村民の中でこうした取組みに参加する人が増えることで、広がりが生まれてきます。



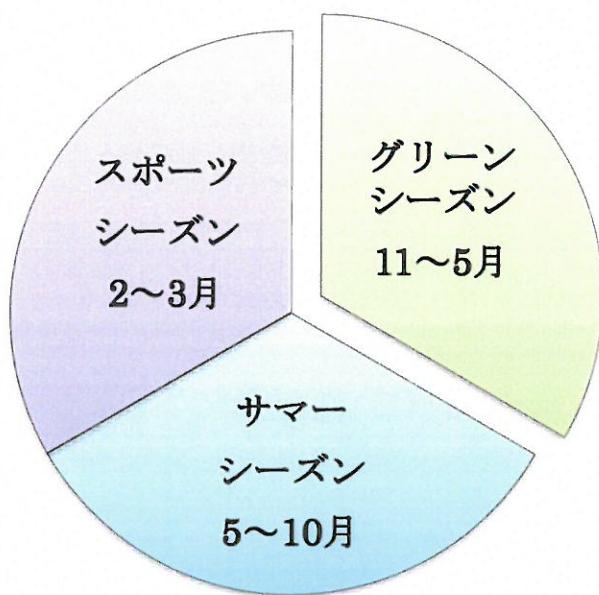
沖縄の新しい過ごし方を提案

宜野座スタイル (GINOZA STYLE)

県外の人々が興味関心を持つキーワードを使って

独自の宜野座村を静かに伝える。(サイレントメッセージ)

宜野座の季節を伝える (宜野座時間)



例えば、このように季節を考えることでそのシーズンにどんなお客様や観光客が訪れるかがわかります。そして、その季節の宜野座村はどのような風景なのかを改めて知る機会になります。

大切なことは「価値」を伝えること。

どの季節の宜野座が魅力的なのは、訪れる人それぞれです。

今や「不便さ」は、「価値」であり「売り」になるアイテムなのです。